

授業概要

戦前と戦後の価値の転換を機軸として捉え、修身科において行なわれた道徳教育と戦後の学校教育全体を通じて行なう道徳教育の相違と多様な道徳教育論を学ぶことによって、現代社会から期待されている学校教育の中の道徳について考察する。また、私立学校における宗教教育との関係や日本在住の外国人の問題も視野に入れて多様な社会の中の一員としての自覚を持たせることを学んでいく。
初等教育においては、道徳性の育成の基礎段階にあたり、基本的な生活習慣についてくり返し指導する必要がある。こうしたことを踏まえて、道徳性の発達についての理解を深めていく。

授業計画

第1回	道徳教育とは何か
第2回	学習指導要領に定められた道徳教育
第3回	教育勅語成立までの道徳教育論
第4回	小学校修身教科書と徳目
第5回	テーマ討論 国民道徳と道徳教育について
第6回	初期社会科と道徳教育
第7回	宇佐美寛の道徳教育
第8回	法則化運動と道徳教育
第9回	コールバーグ理論の道徳教育
第10回	人権教育と道徳教育
第11回	宗教教育と道徳教育
第12回	小学校における「道徳教育の内容」について
第13回	学習指導案の作成および模擬授業 自分自身に関する事柄
第14回	学習指導案の作成および模擬授業 社会・集団に関する事柄
第15回	学校経営と道徳の年間計画について
第16回	試験

到達目標

学校における道徳教育の歴史的展開を考察することを通して、価値観の推移と道徳教育のあり方について検討し、現代的課題に応えられる道徳教育を探求することを目的とする。あわせて、初等教育における道徳教育の内容について指導できる能力を養う

履修上の注意

教員になるための「必須科目・道徳教育の研究」であることを自覚し、私語など迷惑行為は行わないこと。

予習・復習

授業で配布する資料の中に、旧漢字、旧かなづかいの文章があるので、復習して理解できるようにすること。

評価方法

業終了時に行なう試験とレポート及び授業への参加貢献度(課題を提言するなど)を総合して評価する。
上記の比率はおよそ、試験7:レポート及び参加貢献度3

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』、東洋館出版社